

2026(令和8)年1月19日
報道発表資料[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
広報担当:山本、儀三武

<ロームシアター京都 10 周年記念事業>

ロームシアター京都 レパートリーの創造 ホープス

劇団不労社

新作公演

暗黒の喜劇

ワーク・イン・プログレスの公開



2026年1月31日(土) 18:00 / 2月1日(日) 14:00
ロームシアター京都 ノースホール

作・演出:西田悠哉

出演:荷車ケンシロウ、むらたちあき、永淵大河、森岡拓磨(冷凍うさぎ)、
森脇康貴、吉田風詐

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:山本、儀三武

電話:075-771-6051(10:00~17:00)FAX:075-746-3366

E-mail: press@rohmtheatrekyoto.jp

■レパートリーの創造 ホープス

京都発・若手注目演出家と世界を目指すプロジェクトが始動！

若手アーティスト、クリエイターと協働し、京都から世界へ才能を発信する新プロジェクト<レパートリーの創造 ホープス>を開始します。京都を拠点に活動する若手演出家 野村真人・西田悠哉の2名をアソシエイト・アーティストに迎え、それぞれ新作のクリエーションと旧作のリクリエーションを行います。

■西田悠哉／劇団不労社 新作ワーク・イン・プログレスの公開

日時：2026年1月31日(土) 18:00 / 2月1日(日) 14:00

会場：ロームシアター京都 ノースホール

※一般の方のお申込みはすでに終了しています。

2026 年秋の国内公演に向けて、劇団不労社の新作『暗黒の喜劇』のワーク・イン・プログレスを公開します。

今作は、陰謀論をはじめとする思想や信条に着目し、混沌と不寛容と分断の渦巻く世界の在り様をダークに照射することを試みます。劇団不労社の新境地をいち早くご覧いただける機会であると同時に本ワーク・イン・プログレスでは、観客とのディスカッションの時間を設けます。より強度の高い作品づくりに向け進化する、その作品の創作過程にもあわせてご注目ください。



■開催クレジット

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

企画制作：ロームシアター京都 共同制作：豊岡演劇祭

助成：クリエイター支援基金、公益財団法人セゾン文化財団 協力：安住の地



■新作公演『暗黒の喜劇』イメージボードより(執筆：西田悠哉)

フランスの哲学者ジャン＝フランソワ・リオタールは、『ポスト・モダンの条件』(1979 年)において「大きな物語の喪失」という概念を提唱した。「大きな物語」とは、かつて近代社会を支えていた“人類の進歩”や“理性による真理の解明”などの包括的な価値観を指すが、これらが失効したことにより、多様で断片的な価値観が並列する社会になった。全てが等価に認められるようになった一方で、普遍的な軸を失った人々の思想的分断は加速し、コロナ禍という未曾有の感染症を経て、その溝は更に深まっていると言える。そして、その溝に染み込むように入り込んできたのが、世の中の諸所の出来事を「悪の組織」による仕業として解釈する陰謀論的発想だろう。陰謀論の起源は、現象に対する解釈、つまり諸所の現象の“点”と“点”を繋げ、そこに有意の“線”＝「物語」を見出すという、人間が根源的に備えている世界認識のメカニズムである。自らの権利や自由を阻害している「悪役」の存在を前提とするこの思想は、今や政治的なフィールドにまで侵食し、移民やジェンダーを巡る新たな対立を生み出している。

この勧善懲悪的な世界認識の構築に、世の中に無数に溢れるフィクションが一役買ってきたのは間違いない。どれだけテクノロジーが進歩しようと、人間は物語からは逃れられない。「大きな物語」が失われた今、人々は何を信じ、何によって繋がることができるのか。そしてフィクションという虚構の装置はどのように機能するのか。物語を通じて、物語から離れることはできるのか。これらの問いが『暗黒の喜劇』の起点となる。

物語は、架空の小さな町で起こった失踪事件を起点に展開する。

失踪した女性・クウの双子の妹・フウは、事件を機に生まれ故郷である「ゴオクマチ」へと数十年ぶりに帰省する。そこで彼女は、とあるスポーツ団の栄光の残像を目の当たりにする。大人になった団員たちは、町長選挙や起業の問題を巡り、すれ違い、分裂する。社会に熱狂をもたらす「スポーツ × 政治 × ビジネス」の三者をクロスオーバーさせ、人々の欲望が炙り出され、萎れていく姿を描くダーク・コメディ。

過去作の『忘れちゃった生きものが、』『MUMBLE- モグモグ・モゴモゴ -』における地方社会の奇妙な因習や血縁関係の呪縛、『BLOW & JOB』における監視と権力が及ぼす作用、『畜生たちの楽園』における所有と執着の問題など、劇団としてこれまで取り組んできた〈集団暴力シリーズ〉のエッセンスを引き継いだ、“精神的後継作”に位置付けられる。

ルネサンス時代へ強烈な影響をもたらしたフィレンツェの詩人 ダンテの代表作『神曲』の原題は『La Divina Commedia』、つまり“神聖な喜劇”を意味する。人間の根源的に抱える闇を描き、決して笑えるような愉快的内容でないにも関わらず、本作が“喜劇”と名付けられたのは、この物語が地獄から始まり煉獄を経て天国へ辿り着く＝「ハッピーエンド」で終わるからである。『暗黒の喜劇』における幸福な結末とは何か。

皮肉と誠実さを以って、物語なき世界における“ポスト”ポスト・モダンの可能性を見出したい。



新作公演『暗黒の喜劇』稽古の様子

■プロフィール

西田悠哉 | Yuya Nishida

1993 年東京都生まれ富山県育ち。劇団不労社代表。劇作家・演出家。現代社会に潜む歪な人間模様を滑稽かつグロテスクに描く作劇を特徴とする。京都大学大学院在学。創作と並行して、ハロルド・ピンターの劇作術についての研究を行う。2021 年より無隣館 4 期を経て青年団所属。主な受賞歴として、「関西演劇祭 2021」ベスト演出賞、「若手演出家コンクール 2022」優秀賞、「演劇人コンクール 2024」最優秀演出家賞・観客賞など。セゾン文化財団 2025 年度セゾン・フェロー I。



Photo by Shun Ujita

劇団不労社

2015 年に代表の西田悠哉が大阪大学を母体に旗揚げ。2022 年より KAIKA アソシエイトカンパニー。近年はムラ社会的な閉鎖コミュニティを舞台とした「集団暴力シリーズ」に取り組むほか、実験的枠組として「FLOW series」を展開。2023 年度「ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”」にて上演した『MUMBLE—モグモグ・モゴモゴ—』の成果より、「第 2 回 関西えんげき大賞」優秀作品賞・観客投票ベストワン賞、「第 1 回 日本みどりのゆび舞台芸術賞」HOPE 賞など受賞。

劇団不労社 WEB サイト <https://www.furosyu.com/>

■レパトリの創造 ホープス トークセッション動画

若手アーティスト、クリエイターと協働し、京都から世界へ才能を発信する新プロジェクト<レパトリの創造 ホープス>のアソシエイト・アーティストの野村真人・西田悠哉が、これまでの活動や作品、創作に対する姿勢などを語っています。

※以下、URL または QR コードからご覧いただけます。

<https://youtu.be/5lkApuz5wJo?si=PxpFS3fdui3usdd6>



■レパトリの創造 ホープス 今後の予定

ロームシアター京都 レパトリの創造 ホープス

野村真人 新作公演『観光』（仮題）ワーク・イン・プログレス公演

日時：2026 年 3 月 27 日（土） 19:00 会場：ロームシアター京都 ノースホール 料金：1,000 円

※要事前申込（申込方法については後日、ロームシアター京都 WEB ページにてお知らせします）

ロームシアター京都 レパトリの創造 ホープス

西田悠哉／劇団不労社 新作公演『暗黒の喜劇』

日程：10 月上旬 会場：ロームシアター京都 ノースホール

ロームシアター京都 レパトリの創造 ホープス

野村真人 新作公演『観光』（仮題）、リクリエーション『吉日再会』

日程：10 月下旬～11 月上旬 会場：ロームシアター京都 ノースホール